

米中関係の平和

今日、八月六日は広島原爆投下七五年目を迎えます。しかし、米中関係が最悪です。習近平国家主席の元に世界を支配しようとしている中国に対してアメリカは自由と人権を盾に中国の世界制覇を食い止めようとしています。このままの状態ではいつ戦争が勃発しても不思議ではないと言う状況です。コロナと同じで今は瀬戸際なのです。

最悪の事態にならないように

何らかの手を打たねばなりません。一つの方法は米中どちらも、自己主張をしているのではなく、一歩下がって、相手の主張を聞くことです。そして受け入れることは受け入れ、どうしても受け入れられないことは駄目であると提案しなければなりません。

聖書では米国と中国の間の隔ての壁を取り除くように言われています。

隔ての壁とはそれぞれの主義主張であり、生活スタイルです。これを失うことは自らが敗北したことと考え易いのですが、世界は持ちつ持たれつの関係です。運命共同体なのです。

一つの体のようなもので、それぞれは器官の一部なのです。どこが一つだけが丈夫で他は病んでいるなら、やがて死に至るのです。

ではどうするか、

一つの体である世界を創造されたお方の考えを聞かねばなりません。

「実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにして、ご自分の肉において隔ての壁である敵意を打ち壊し、」(エペソ人への手紙2:14)

イエス・キリストこそ不信、猜疑心、嫉み、傲慢、貪欲、好色、貪りという人間の罪、米中の罪を取り除くために十字架の上に犠牲となりました。これにより、人間の心に信仰と愛と希望と平和が与えられるのです。

幸い中国には日本人口と同じ一億二千万以上のクリスチャンがいます。米国はかつてはピュリタン(清教徒)によって建国しました。お互いイエス・キリストを信じる人々を中心に話し合っ解決の糸口を見つけて、互いに歩み寄ることです。

それだけでなく、感染拡大が収まらないコロナ、また温暖化による自然災害の増加、互いに協力しなければ容易ならざる事態が目前に迫っているのです。